

令和5年

委託事業所における労働災害発生状況

当協会に労働・社会保険事務を委託している事業所における、令和5年1月～12月までの労働災害の発生状況がまとまりました。

全体の発生件数は63件であり、その内、業務災害は61件（うち特別加入者9件）、通勤災害は2件でした。特別加入者の件数が倍増しているのは、人手不足により事業主自身が頻繁に現場に出ている状況が背景にあることが考えられます。また、熱中症が4件（7～9月）発生しています。

発生件数は前年比でみると2件の減少ではほぼ横這いとなりましたので、各事業所においては引き続き安全管理に対するなお一層のご努力をお願いしたいと思います。

以下、災害の内容について分析した結果は、図1～図6のとおりです。

- ① 業種別発生件数では、製造業が21件(33.3%)と全体の3分の1を占め、次いで商業・サービス業19件、建設業10件の順で多く発生しており製造業と、第3次産業・建設業などでの災害多発傾向が続いています。
- ② 事故の型別状況を見ると、激突・飛び降りでは13件発生し、また、建設・運輸・林業などの屋外型産業では、挟まれ・巻き込まれや転倒による災害、新聞配達業での交通事故が目立ちました。
- ③ 製造業では、機械・金属製品製造業5件、食料品製造業4件という状況になっています。クレーンで釣り上げた製品がフックから

外れて体に当たったという災害も発生しています。

- ④ 年代別では、作業現場の高齢化が進んでいる結果、50歳代以上の件数が29件と全体の46.0%を占めており、筋力や反射神経の低下を考慮した作業方法を工夫するほかに、腰痛予防のために重量物を取り扱う際に台の高さを調整したり、補助具を使用したりするなどの負担軽減策を講ずる必要があります。
- ⑤ 災害の規模をみると、災害全体に占める休業4日以上災害の割合は、令和5年は42.9%で、災害の重篤化が見て取れます。

災害の概略は以上ですが、年々暑さが増してきており、作業現場での熱中症対策が重要になってきています。夏場に朝食抜きで現場に入るなどの行為は大変危険です。塩分と水分の確保に注意し、適度に休憩を入れるなど工夫が必要です。

お仕事、今日もご安全に！

